

# 内 発 協 新年賀詞交歓会を開催

内発協（吉村宇一郎会長）では1月13日、都内の東京プリンスホテルで「令和8年新年賀詞交歓会」を開催しました。冒頭、吉村会長は「非常用発電設備には災害発生時に確実に起動し、稼働して、電気の安定供給に貢献することが求められています。建設現場で非常電源として使用される可搬形発電設備には環境対策を一層強化することが求められています。自家発電界の会員皆様のご協力をお願い申し上げます」と述べました。**（関係記事7～17面に）**

続いて、経済産業省、総務省消防庁、国土交通省の来賓三氏がそれぞれの立場から祝辞を述べました。その後、浦宏行（うら・ひろゆき）副会長＝ヤンマーエネルギーシステム株式会社取締役東京支社長のご発声で全員で乾杯を行い、懇親へ移りました。会場では談笑の輪が広がると共に、旧交を温める様子が散見されました。19時半過ぎに小野史宴（おの・ふみやす）副会長＝株式会社小松製作所エンジン販売サポート部部長の中締め掛け声に合わせて全員で手拍子を打ち散会しました。出席者数は410人。

内発協が長年に渡りご交流を賜る（一社）東京都設備設計事務所協会（武井一義会長）は1月30日、都内の東京国際フォーラムで「設立20周年記念式典・祝賀会」を開催しました。式典は3部構成。▼11時から「賛助会員企業28社の製品展示会」▼13時30分から「新築・改修設計と設備概要など事例紹介を行った若手技術者による作品発表会」▼16時から「設立20

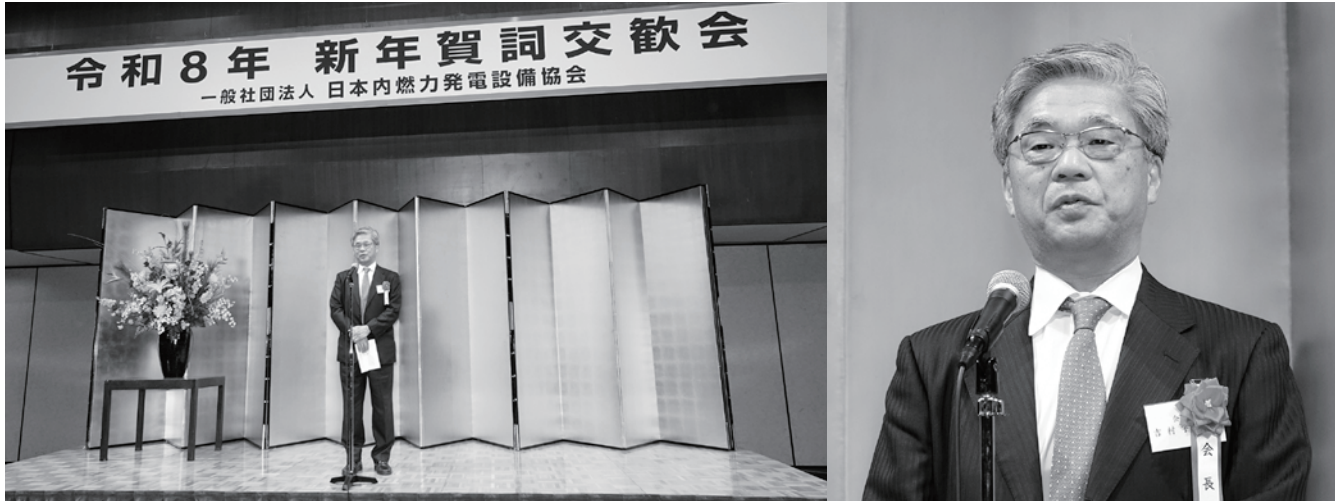
周年記念式典」をそれぞれ開催しました。うち、記念式典では武井会長の開会あいさつ、来賓三氏の祝辞の後、望月温理事が「協会20周年の歩み」を上映して紹介しました。「功労者表彰」では功労賞6人・功績賞4人・特別賞2人の全員に対し、武井会長が表彰状と記念品を贈呈しました。受賞者代表が謝辞を述べました。「換気設備の歴史と効用」と題して東京理科大学副学長の倉淵隆様が特別講演を行いました。出席者数は317人。**（関係記事24～28面に）**



内発協が長年に渡りご交流を賜る（公社）東京電気管理技術者協会（平岡英治会長）では1月14日、都内のホテルニューオータニで「令和8年新春賀詞交換会」を開催しました。平岡会長の開会あいさつに続き、①関東東北産業保安監督部長の溝田健志様②東京電力パワーグリッド株式会社取締役常務執行役員の大石峰士様③一般財団法人関東電気保安協会理事長の武部俊郎様④全国電気管理技術者協会連合会会長の若林健太様の来賓四氏が祝辞を述べました。（公社）全関東電気工事協会会長の天野春夫様の乾杯ご発声で祝宴の幕を開けました。**（関係記事29～30面に）**

# 一般社団法人 日本内燃力発電設備協会

よしむら 会長 吉村 宇一郎



1月13日、内発協の令和8年新年賀詞交歓会で開会あいさつする吉村宇一郎会長

皆様、あけましておめでとうございます。

一般社団法人日本内燃力発電設備協会の会長を務めております、吉村宇一郎です。

本日は令和8年新年賀詞交歓会の開催に際して、当協会を代表して新春年頭のご挨拶を申し上げます。

平素より事業活動に対して、当協会会員である企業の皆様には、多大なご協力をいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

また、本日は大変お忙しい中、会員企業より沢山の皆様にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

その中で、当協会の事業活動に日頃よりご協力をいただいております、経済産業省の大臣官房審議官・産業安全担当の細川様。総務省消防庁の予防課・設備専門官の明田様。国土交通省の住宅局参事官の高田様。御三人様には公務でお忙しい中、ご出席いただいております。

後ほど、ご挨拶いただきたく存じます。よろしく願いいたします。

ご存じのとおり、今年の干支（えと）は「丙午（ひのえうま）」です。

午年（うまどし）はエネルギーが高く、前進・飛躍の年とされています。

特に、丙午は気のエネルギーが強まり、物事がダイナミックに展開する一年といわれています。

内燃機関を生業とする、我等が自家発業界団体としては、非常に縁起の良い一年になるのではないかと考えています。

一方、昨年から今日まで、世界情勢を顧みれば、ウクライナにおける紛争（戦争）は、いまだに終結しない状況であります。

エネルギー安全保障の観点からも一日も早く平和的な形で落ち着いてほしいと願っております。

また、アメリカ合衆国による南米産油国ベネズエラ国への軍事的・政治的な介入や、中国による希少金属「レアメタル」の輸出規制の強化など、エネルギーを巡って非常に大きな動きが年明けすぐに起こっています。

このように日本を取り巻く国際情勢は、大変厳しく、日本にとっては油断を許さない年の初めとなっています。

そうした国際情勢の下、日本国内では高市政権が誕生しましたが、近々に衆議院選挙が実施される見通しとの報道もあり。今後の政権運営がどうなるのか。

国内政治も予断を許さない、国内社会も先行き不透明な状況になっています。（1月13日時点）

一方、「昨年12月に青森県東方沖で地震が発生した。その後も島根、千葉でも地震が続いた」ことを引き合いに出した上で、国内でもここ数ヶ月間に全国各地で大きな地震が起きております。

「災害対策」を想定した準備は日頃からしっかりと講じていかなければならないと、改めて念（おも）いを強くしています。

その災害対策準備の中で、「非常電源の確保」はとても重要となってきております。

私達を取り扱う「非常用発電設備」は、災害発生時に確実に起動し、稼働して、電気の安定供給に貢献しなければなりません。

さらに、国民の地球環境意識の高まりを受けて、建設現場などで非常電源として使用されている「移動式の可搬形発電設備」についても、製造メーカーに対しては一層の環境対策を講じていくことが重要となっています。

当協会に対しては自家発電設備に携わる専門技術者の養成を図ることに加えて、自家発電設備などに係わる品質確保に向けた製品認証業務を通じて社会の安全安心のさらなる向上を図る、一層の取り組み強化も求められています。

当協会では創設以来、自家発電設備に係わる幅広い分野で実務に携わる「専門技術者の養成事業」に加えて、自家発電設備の性能向上と品質確保に係わる「製品認定から製品認証へと」一貫した事業の実施を通じて自家発電業界をご支援させていただいております。

社会の安全安心に寄与できる防災対策を進める上で、重要な役割を担う自家発電全般に係わる事業活動を一貫して、当協会が延べ50年余りの長きに渡り継続して、実施できたことはひとえに当協会会員である企業各社の皆様のたゆまぬご支援の賜物です。

この場をお借りして厚く御礼申し上げます。そして会員企業の皆様を始め、関係団体と関係省庁の皆様には引き続きご協力とご支援賜りますようお願い申し上げます。

最後に、1976年3月18日の「社団法人の設立日」から、当協会は2026年で「満50周年」の節目を迎えます。そして6月5日の「第51回定時総会の開催日」に同じ会場において、

当協会は「**創立50周年の記念史**」をお披露目して、盛大な「**創立50周年の記念式典**」を開催します。

当協会会員である企業各社の皆様には万障お繰り合わせの上、ご参加くださるようお願いいたします。

結びに、本日、ご参集された会員各位を始め、ご臨席された関係団体及び関係省庁の来賓各位のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

## 経済産業省 大臣官房審議官

産業保安・安全担当

ほそかわ  
細川

なるみ  
成己氏

新年あけましておめでとうございます。

ただいま御紹介を頂きました、経済産業省の細川でございます。

本日は日本内燃力発電設備協会の賀詞交歓会にお招きいただき誠にありがとうございます。

御臨席の皆様におかれましては、日頃より産業保安・安全行政に関して、御理解・御協力を賜り、心より深く御礼を申し上げます。

昨年は、岩手県大船渡市で発生した林野火災や度重なる豪雨・台風、青森県東方沖を震源とする地震をはじめとして、多くの自然災害が発生した一年でした。

また本年も新年明けて2週間も経過しておりませんが、アメリカ合衆国によるベネズエラ大統領の身柄拘束や、自然災害についても鳥根県東部を震源とする大きな地震や警報級の大雪が発生したところです。

被災された方々に、改めて心よりお見舞いを申し上げますとともに、経済産業省としても、緊張感を持って、引き続き地方自治体やインフラ事業者の皆様と連携しつつ、災害への事前の備えと、発災時の迅速な対応に努めてまいります。

こうした状況の中でのキーワードは、自然災害或いは海外の動乱ということになります。

それらからエネルギーの安定供給或いは重要性に思いが至りますが、昨年策定されましたエネルギー基本計画において、自家発電設備については、一つは「**燃料確保について非常時の中核ガス充填所等への自家発電設備の設置**」など、もう一つは「**自家発電設備の脱炭素化**」などが記載されています。

自家発電設備は、常用、非常用、それぞれ重要な役割を担っており、安定的な電源の確保にも資していることから、脱炭素化に向けて、水素やアンモニアの活用の促進が重要となってきているところであると承知しております。



来賓あいさつする細川成己氏

経済産業省としても、安全確保を前提に、水素・アンモニアを燃料とする内燃力発電設備に係る保安規制の在り方について検討を進めています。

このような昨今の状況も含め、新しい動きにも機敏に対応できるよう、自家用発電設備に係る専門技術者の養成等を通じ、高度で専門的な知識・技能を有する人材を確保いただき、多大な貢献をいただいていると承知しています。

先程申し上げましたように世の中の動きが激しい中で、貴協会に期待される役割が益々大きくなると考えており、経済産業省としても一層の連携をさせていただきたい次第です。

結びに、「**創立50周年**」を迎えられる日本内燃力発電設備協会の益々の御発展、御臨席の皆様の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

## 総務省 消防庁 予防課

### 設備専門官 兼 理事官

あ け た だ い ご  
**明 田 大 吾 氏**

新年賀詞交歓会にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様方におかれては、日頃から消防・防災行政の推進にご協力いただいておりますことに、厚く御礼を申し上げます。

本年は、貴協会が「**創立50周年**」という大きな節目を迎えられると伺っております。

創立以来、「**自家用発電設備の製品認証**」などの業務を通じて、消防用設備の信頼性確保と安全性の向上に尽力していただき、地域の安全・安心を支えていることに深く敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。



来賓あいさつする明田大吾氏

さて、昨年災害を振り返りますと、春先の大規模林野火災、夏季の大雨や台風、さらには秋の大分市市街地における大規模火災など、全国各地で災害が相次いで発生した一年でございました。

こうした災害が発生した際においても、電力を安定的に供給するということは極めて重要なことであり、自家用発電設備の日頃からのメンテナンス・保守管理を通じて、貴協会が果たされている役割は極めて重要であります。

そうした日頃のご尽力に深く感謝しております。

また、わが国は人口減少に伴う労働力不足や、デジタルトランスフォーメーション（DX）、カーボンニュートラル（CN）への対応といった大きな社会変革の渦中にあります。

消防庁におきましても、こうした社会情勢の変化を的確に捉えて対応を図るべく、昨年より学術機関や関係団体の皆様にご参画いただき「消防技術戦略会議」を開催しております。

消防分野におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）や、新技術の研究開発の指針となる「消防技術戦略ビジョン」の策定に向け、幅広く検討を進めているところです。

こうした社会情勢の変化や災害の激甚化・頻発化に的確に対応していくため、引き続き、皆様方の高度な知見と変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会のますますのご発展と、本日ご出席の皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。

## 国土交通省 住宅局

参事官 建築企画

たかぎ なおと  
高木 直人 氏

日本内燃力発電設備協会の皆様におかれましては、平素より建築物のレジリエンス確保、ならびに脱炭素化に向けた取り組みにご尽力を賜り、心より御礼申し上げます。

近年、能登半島地震をはじめ、各地で豪雨災害等が相次ぎ、自然災害の頻発化・激甚化が進んでおります。国土交通省としても、被災地の一日も早い復旧・復興に向け、引き続き全力で取り組んでまいります。

このような災害時において、庁舎や病院など防災拠点となる建築物が機能を継続できることは極めて重要です。そのため、停電時にも必要な電力を確保できる非常用自家発電設備の整備は不可欠であります。

皆様が進めてこられた技術基準の整備、専門技術者の育成、製品認証制度の運営は、非常時の電源確保の信頼性向上に資するものであり、国民の安心・安全の確保に直結する重要な取り組みであると認識しております。

本年は、住宅・建築行政において節目となります。住宅分野においては、国民の住生活の安定の確保及び向上の促進に関する基本的な計画である「住生活基本計画」が、本年3月に閣議決定となる見込みです。

また、日本政府が掲げる「2050年カーボンニュートラルの実現」に向け、建築分野においても大きな転換期となります。

令和4年に改正された「建築物省エネ法」につきましては、令和7年4月1日からの全面施行により、原則としてすべての新築建築物に省エネ基準への適合を求めることと



来賓あいさつする高木直人氏

しておりますが、こうした取り組みをさらに一歩進め、製造から運用、更新・廃棄に至るまでの建築物のライフサイクルカーボン評価制度の検討を進めてまいります。

皆様におかれましては、これまで蓄積されてきた知見を活かし、環境性能の一層の向上に加え、デジタル技術を活用した保守・点検の高度化など、「GX」・「DX」の視点を取り入れた取り組みをさらに推進されることを期待しております。

貴協会におかれましては、「**昨年の3月18日付けで創立50周年**」という大きな節目を迎えられました。半世紀にわたり、我が国のエネルギーの安定供給に多大なる、ご貢献を重ねてこられたことに、深く敬意を表します。

今後とも、皆様のご尽力により、災害に強く持続可能な社会の実現に向けた取り組みが一層進展することを大いに期待しております。

結びに、貴協会のますますのご発展と、本日ご参集の皆様のご健勝・ご活躍を祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

## 一般社団法人 日本内燃力発電設備協会

うら ひろゆき  
副会長 浦 宏行 氏

### 乾杯の発声

皆様、明けましておめでとうございます。

内発協の副会長を務めております、ヤンマーエネルギーシステム株式会社の浦 宏行と申します。

本日はご来賓の皆様と、会員企業の皆様には、新年ご多忙にもかかわらず、約410名のご出席があると、先程、事務局より伺いました。

改めて御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返って、何があったのかと申し述べますと。

やはり、「**大阪関西万博の開催**」が一番に思い出されます。

会場内に急ピッチで建設された、多数のパビリオン施設の着工にあたり、「**自家発電業界**」の我々と関係の深い、特に「**建設業界**」の皆様は沢山のご苦勞をされたと聞いております。

無事に、大阪関西万博が終了した後は、そうした建設業界の潮目は一段落するものと、私は事前に推察しておったのですが。

昨年の年末から今年の年始にかけて、どこもかしこも、建設現場においては多忙な状況が継続しているとの企業も数多くあるという。

建設業界の企業によっては向こう3年間から4年間分ほどの受注案件を抱え込んでいるところもある、と私は伺っております。

日本の建設業界にとっては、大変喜ばしいことでもあります。



乾杯の発声の前にあいさつするヤンマーエネルギーシステム株式会社取締役東京支社長の浦宏行副会長

さて、令和8年は**「内発協の創立50周年」**を迎えます。

先程、当協会会長の吉村様が開会挨拶の中でお伝えされたとおり。

創立50周年の記念事業として、**「創立50周年の記念史」**の図書の刊行と、**「創立50周年の大規模な祝賀会」**の開催という二つのプロジェクトが計画されている、と伺いました。

当協会会員である企業の皆様には、万障お繰り合わせの上で、是非ともご出席賜りたく存じます。

今年6月5日、再び東京プリンスホテルの会場で、元気で皆様と再会できることを楽しみに、はや心待ちにしております。

冒頭から申し上げているとおり、国内では「建設業界」の企業においては、現在も活況を呈している最中に在ります。

一方、国内においては、「自家発業界」で唯一の団体として存在する当協会の「必要性」と、当協会会員である企業の我々の「存在意義」について、私は再認識しているところであります。

災害発生により停電などが想定した「いざ！という時」のために、あらかじめ「非常電源の確保」を図ることはとても重要なことでもあります。

平時の日頃から「非常用発電設備」などの普及促進に取り組む我々は、日常生活の中で大きな使命を担っております。

社会的に大きな使命というものに対する、偉大な責務を果たし続けていくことは、当協会会員である企業各社の皆様の間で平時の一貫した協調性の発揮があってこそ、緊急時の協業は成し遂げられるものであります。

そうした自覚を心の奥深くに持って、さらなる自家発業界の発展を思い描き、その思いの実現に向けて、当協会会員である我ら企業人の皆で、力を合わせて頑張っていきたい、と私は思っている次第です。

本日ご出席いただいた会員企業のますますのご発展と、本日ご隣席賜った関係団体・関係官庁の皆様のご健康を、心より願って乾杯したいと思います。

皆様、ご唱和願います。**「乾杯」(一同乾杯)**。



会場風景。登壇者のあいさつを傾聴する出席者たち

# 一般社団法人 日本内燃力発電設備協会

## 副会長 小野 史宴 氏



中締めあいさつする株式会社小松製作所エンジンサポート部部長の小野史宴副会長。会場の全員で一本締めを行った

## 中締めあいさつ

本日は一般社団法人日本内燃力発電設備協会の令和8年新年賀詞交歓会にお集まりいただきありがとうございます。

内発協の副会長を務めています、株式会社小松製作所の小野史宴と申します。

さて、弊社、小松製作所は建設機械のメーカーであります。

この自家発業界においてはディーゼルエンジンを製造している構成機器・部品メーカーとして、当協会会員である企業として参加させていただいています。

会員企業の皆様の中にも、部品を作られている企業が数多くいらっしゃる、と思います。我々が作っている部品だけでは、まだ世の中の役にはたちません。

我々の制作した部品を、発電設備メーカー様が用いて、「発電設備という製品」に仕上げてこそ、初めて世の中に役に立ちます。

その発電設備メーカー様が作られた「発電設備」を、今度はお客様のもとに設置してくださる側は、「据付工事業者」の会員企業の皆様であります。

その据付工事業者の会員企業の皆様が、その発電設備を優しくそっと特定席に置いていただくによって、その発電設備の居場所が生まれます。

その発電設備を導入後、今度は定期的に点検整備を行い、メンテナンスを実施してくださる皆様がいらっしゃいます。

その皆様が、発電設備をきちんと天寿を全うできるように面倒を見てくれる皆様が

いることによって、我々の自家発業界としては、「**日本の国土強靱化（レジリエンス）の一翼を担うことが出来る**」、と私は思っております。

自家発業界で唯一の専門団体は、この内発協です。

この内発協の集まりをうまく利用して、お互いの業界で情報交換を行いながら、切磋琢磨を続けていくことを通じて、日本はますます災害に強い国になっていく、と私は思います。

最後になりますが、皆様のご多幸とご健康を祈念して、一本絞めで中締めとさせていただきます。

それでは、まいります。皆様、お手を拝借願います。**「よーっ」（手拍子）**。